

会議の名称 令和7年度 第1回名取市環境審議会

開催日時 令和7年12月23日（火）午前10時15分から午後12時20分

開催場所 名取市役所 議会棟 第3・4委員会室

出席委員 坂口 大洋 委員 中俣 友子 委員 菅野 美穂子 委員
尾身 宜彦 委員 今野 義正 委員 佐々木 由美子 委員
晴山 功 委員 鈴木 みゆき 委員 仙石 覚 委員
佐々木 格雄 委員 (委員14名中10名出席)

欠席委員 洞口 祐一 委員 武田 大輝 委員 齋 輝夫 委員
氏家 晃 委員

会議傍聴者 なし

事務局職員 『名取市生活経済部』
小松 政博 部長

『名取市生活経済部環境共創課』
朽木 康裕 課長
石川 雅一 課長補佐兼ごみ減量推進係長
丹野 宏俊 主幹兼環境保全係長
津軽谷 さつき 環境保全係主査
高橋 賢悟 環境保全係主事

会議内容

◎委嘱状交付式

- 1 開会
- 2 挨拶 市長 山田 司郎
- 3 委員の選出（会長 1名 副会長 1名）
 - ・名取市環境基本条例 第26条第1項の規定により、会長、副会長を委員が互選。会長に坂口 大洋 委員、副会長に中俣 友子 委員が選出された。

4 報告事項

・名取市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）における市の取組状況について

- ①事務局より資料 1 に基づき説明。
- ②議長が質疑等を求め、各委員から次のような発言があった。

委 員：基本方針 3「環境にやさしい交通への転換の推進」の指標 NO3「なとりん号、なとりんくるの利用者数」について、令和 6 年度実績が目標値を超えているが、目標値の見直しについて検討はしているか。

事務局：なとりん号、なとりんくるの利用者数の目標値見直しについて、計画策定から初年度の実績報告であることから、今後経過を見ていくことを踏まえ現在検討していない。

委 員：基本方針 5「ゼロカーボンシティ実現に向けた地域の形成」の指標 NO1「市民 1 人 1 日あたりのごみ排出量」について、令和 6 年度実績 717g というのは、市民 1 人年間あたりのごみ排出量ではないか。
1 日あたりの値である場合は、計算方法等ご説明願いたい。

事務局：717g という数値は資料に記載の通り、市民 1 人 1 日あたりのごみ排出量ということでお示ししている。計算方法としては、家庭ごみにその他粗大ごみなどを含めた市全体から排出されるごみ総排出量から、人口と日数で割った値である。

・名取市温室効果ガスの排出抑制等のための実行計画（事務事業編）の取組状況について

- ①事務局より資料 2-1～2-4 に基づき説明。
- ②議長が質疑等を求め、各委員から次のような発言があった。

委 員：資料 2-3 表 1-2 燃料等の使用形態別温暖化寄与割合について、電気使用による寄与割合が最も高いと示されているが、表 1-3 燃料別 CO2 換算排出量に記載のある燃料の内、どれが電気使用に係る部分なのか。

事務局：電気の温室効果ガス排出量は、電気の使用料を電気事業者ごとに定める排出係数で求めるため、発電の過程で発生する温室効果ガスの量を捉えたものではないことをご承知いただきたい。

委員：事務事業から排出される温室効果ガス排出量を令和 12 年度までに平成 25 年度比 51%削減することについて、令和 6 年度実績では 7.85%の削減率であることを踏まえ、目標設定が高いと感じる。そのことから目標値の見直しは検討されているか。

また、電気等の使用量が増えている背景を踏まえ、再生可能エネルギーの普及率を上げることも大切だが、老朽化した公共施設等を対象に断熱改修によって電気等の使用量を増やさない取組も必要と感じるが、いかがか。

事務局：温室効果ガス排出量の削減目標の見直しについては、計画策定から初年度の実績報告であることから、今後経過を見ていくことを踏まえ現在検討していない。

また、断熱改修等による電気等の使用量を増やさない取組については、改築を行った公民館等ではなるべく環境性能が高いものを使うようにしていると聞いている。引き続き、断熱改修等の温室効果ガス排出抑制に向けた取組について、先進事例も研究しながら検討していきたい。

4 協議事項

・第二次名取市環境基本計画の見直しについて

①事務局より資料 3、4-1～4-3、5 に基づき説明。

②議長が質疑等を求め、各委員から次のような発言があった。

委員：資料 4-1 中の実施上の課題や資料 4-2 の目標値など空欄としているのは、今後の検討箇所という認識でよろしいのか。

事務局：お見込みの通りである。

委員：資料 4-2 基本目標 3「環境負荷の少ない都市環境を創出します」の施

策番号 3「水素自動車等の最先端のエコカーの普及促進」について、水素自動車の価格が標準よりも高いことや水素ステーションの設置場所が、現在のところ近隣では、仙台市と岩沼市にのみあることを踏まえ、目標の文言には環境に配慮した車を総称する「エコカーの～普及促進」などと言い換えた方がよろしいのではないか。

事務局：委員のご指摘の通り、より相応しい文言の提案などを踏まえ、年度内に予定している 2 回目の環境審議会等の場で、計画の見直しの方向性をお示しする際に改めてお諮りさせていただきたい。

委員：資料 5 の市民アンケートで「関心がない」という選択肢があるが、表現的に回答者が抵抗を覚えてしまうので、「分からない」に変えてみてはどうか。

事務局：委員のご指摘の通り、修正させていただく。

委員：資料 5 の市民アンケートで得た結果はどのように利用されるのか。また、目的についてもお伺いしたい。

事務局：現計画の策定に際し、2018 年に同アンケート調査を実施しており、それから時間が経過していることから、環境に関する意向の変化をアンケート調査で捉え、計画見直しを検討する際の判断材料にさせていただく。

また、アンケート調査で得られた結果をもとに関心が高い施策を重点施策に位置付けるなど、回答を踏まえ整理をさせていただく。

委員：資料 5 の市民アンケートで事業者を対象としたアンケート調査があるが、対象事業者は具体的にどのような事業者なのか。

事務局：原則、商工会に登録されている市内事業者を対象としており、仙台高専、尚絅学院などといった独立行政法人、学校法人については過去にも対象としていない。

これらについては、新たに調査対象とするのか整理させていただく。

5 閉会

以 上